H27年6月17日

市川の歴史

第 6 号

発行 ： 八戸市立市川中学校地域学校連携協議会
校長：馬渡教二　　会長：小向龍悦

〈五戸市川新田(八戸市市川町)の開発②〉
（圓子嘉右衛門宣種の業績）

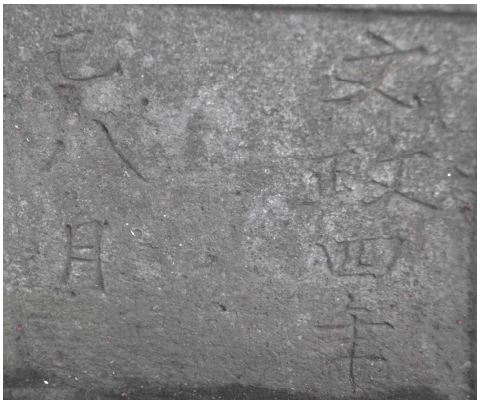
前号では、盛岡藩の「五戸市川新田」事業が開始され、新田奉行の執務する**新田役所**が現在の市川町**下中平沖**に設置されたこと等を述べました。

宝暦元年(1751)には、約22ヘクタールの新田地が開かれ、14組の組頭で支配される新田村が形成されるまでになり、幕末の万延元年(1860)には、約81ヘクタールまで伸びています。

市川新田の年貢は、藩主の私的財産として収納されましたが、圓子嘉右衛門は、万が一に備えてその一部を**貯蔵させました**。このために天保の大飢饉の時には**この蓄えが市川の人々を救った**のです。

（後に、向谷地の佐々木太郎左衛門は、江戸時代の凶作日記である「市川日記」(県重宝)に、「かよふの御囲籾稗有る所ハ**此村 斗リ也**」と記しています。）

圓子嘉右衛門他の顕彰碑



【文政四年巳八月】の文字

後年、村では圓子嘉右衛門の功績をたたえ、**文政4年**(1821)に**顕彰碑を建立し、お参りをした**ことが盛岡藩日記に記録されています。この石碑がどこにあるのか永年はっきりしませんでしたが、願成寺の西側にある伏見稲荷大明神裏手の石碑に**文政四年巳八月**の文字を読み取ることができ、これが圓子嘉右衛門の石碑であることが初めて確認されました。

（平成25年6月3日確認・撮影）　※圓子嘉右衛門関係の石碑は、このほかにもあります。

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木 村 隆 一

参考資料：「八戸市史近世資料編Ⅲ」「三戸・八戸の歴史」　ほか